

中嶋嶺雄が考える

今の教育の問題点

- 1 教育のカリキュラムがグローバル化した世界に対応していない。
コミュニケーションツールとしての英語を筆頭に、多くのカリキュラムが今の世界に対応したものに進化していない。
- 2 人間形成に欠かせない教養教育が疎かになっている。
豊かな人格、感性を育むための基礎となる教養教育(リベラル・アーツ教育)が軽視されている。
- 3 その結果、世界に通用する人材育成がまったくできていない。
語学力を含む総合的なコミュニケーション能力、深い教養など、海外の大学生なら当たり前前能力や知識が欠けている。

この状況に対して中嶋さんは、自らの手で画期的な挑戦を開始した。秋田県知事だった寺田典城氏の要請を受けて2004年に秋田市に設置された公立大学法人「国際教養大学」の理事長兼学長に就任。グローバルな世界に通用する人材の育成に乗り出したのである。講義はすべて英語で行われ、欧米の大学同様に厳格な進級システム、日本の大学が疎かにするリベラル・アーツ(教養教育)を重視したカリキュラムを採用。4年の在学期間中にTOFEL550点をクリアして必ず海外の大学に留学しなければ卒業できないという、海外の超一流大学と肩を並べる内容だ。

「もはや大学はブランドで選ぶのではなくカリキュラムでどんな内容の教育が受けられるか、卒業後にどんな人物になれるかで選ぶ時代。親はそのことを認識するべき時です」

中嶋さんの育てた卒業生はまだ少数だが実力を認められて、有名企業から求人が殺到。日本の大学文化はこの学校から確実に変わり始めている。

今最も日本で注目されている大学、国際教養大学の学長を務める中嶋嶺雄さんは日本の人材教育の貧困を憂慮する。「天安門事件という中国の悲劇を代償にしたベルリンの壁崩壊で世界がグローバル化して20年が経ちますが、この状況に日本の大学教育はまったく対応できていない。あらゆる分野で人材が払底しているのに、文部科学省は何もしないし、国立大学は旧態依然のまま。私は教育再生会議の委員としてさまざまな提案をしましたが、答申を出しておしまいです」

この状況に対して中嶋さんは、自らの手で画期的な挑戦を開始した。秋田県知事だった寺田典城氏の要請を受けて2004年に秋田市に設置された公立大学法人「国際教養大学」の理事長兼学長に就任。グローバルな世界に通用する人材の育成に乗り出したのである。講義はすべて英語で行われ、欧米の大学同様に厳格な進級システム、日本の大学が疎かにするリベラル・アーツ(教養教育)を重視したカリキュラムを採用。4年の在学期間中にTOFEL550点をクリアして必ず海外の大学に留学しなければ卒業できないという、海外の超一流大学と肩を並べる内容だ。

国際教養大学 Akita International University

2004年に秋田市中心部から十数キロという繁華街から離れた場所に開学した、秋田県が出資する公立大学。講義はすべて英語で行われ、1年間の海外留学義務の他、24時間開館の図書館など勉学に専念するための環境が整っている。



世界でも珍しい865日稼動24時間開館の図書館。蔵書も設備も充実している。



キャンパスは広く開放的で自然に恵まれた環境。学内には寮があり、1年生は必ず1年間、学内で寄宿する。

どんな科目も講義はすべて英語。外国人教員も多く、一方的ではなく対話型で少人数制の講義が中心だ。



中嶋嶺雄

●国際教養大学 学長

なかしま みわお / 国際教養大学学長、国際社会学者。1936年長野県松本市生まれ。東京外国語大学中国科卒業。東京大学大学院社会学研究科修了。オーストラリア国立大学、パリ政治学院、カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院の客員教授を経て、東京外国語大学学長、アジア太平洋大学交流機構国際事務総長、文部科学省中央教育審議会委員、内閣教育再生会議有識者委員などを歴任。

「世界に通用する人材を育成 できる、大胆な大学改革を 一刻も早く進めるべき」

国際社会学者である中嶋嶺雄さんが学長を務める秋田の国際教養大学は、日本の既存の大学教育の否定から生まれた公立大学だ。既存の大学教育のどこが問題かをお話頂いた。

教育でいちばん大事なことは、人材を育てること。日本が近代化に成功したのは、何よりも公教育がしっかりして、優れた人材の育成に成功したから。ですから世界ではどの国も人材育成に目の色を変えて取り組んでいます。ところが今の日本の高等教育、特に人材育成がいちばんの役割であるはずの日本の大学では良い人材を育てられない。国内では優秀とされる霞ヶ関の役人、特に外交官も、「アメリカ後の世界」(徳間書店刊)の著者、国際ジャーナリストのフアリード・ザガリアが指摘するように、国際的にはまったく通用しません。日本を代表する国際社会学者であり、